

私のがん治療

考え方や生活習慣を変えられれば、がんはその役目を
終えて静かに去っていくのではないでしようか

患者さんの話しをじっくり聞いて、心に寄り添うことから始めます

——先生には創刊以来大変お世話になって
います。小誌も創刊から11年
となりましたので、先生とも長いお
付き合いとなりました。

まず、先生のことをご存じない読
者もいらつしゃいますので、ご経歴
からお話してください。

藤沼 1979年に獨協医科大学を
卒業し、同大学の第1内科に入局し
ました。その後は、大病院やその
系列の関連病院などに勤務していま
したが、大学講師となり、診療・研
究と併せて授業も行いました。

そして、1982年に藤沼医院を
開業したのですが、その際は教授の
許可を得て大病院勤務も継続し、
1990年には博士号を取得しまし
た。

当初は土曜日の夕方だけだった医
院での診療も、患者さんのニーズも
あり診療日が徐々に増えてきました
ので、1995年に大学を退職しま
した。2013年には大学の非常勤
講師も辞めましたので、現在は藤沼
医院に専念しています。

——前回お聞きしましたが、先生が
医師になられたきっかけは、若いと
きに病气やけがで悩まされていた際
に名医に出会ったことでしたね。今
は逆に、先生が幅広く統合医療を取
り入れて一般の診療では治らなかつ
た患者さんのための診療を続けられ
ていることに、敬意を表します。

ところで、栃木県内郡というこ
の地でご開院された理由をお聞かせ
ください。

藤沼 この地には先祖代々住み続け
ていて、遡れば源氏の家系にまでた
どり着くということなんです。なので、
父祖伝来のこの土地に愛着が強いので

でこの地で開院しました。

——では、がん治療に関してお聞き
します。遠方からも受診に来られる
患者さんも多いようですが、具体的
な診療内容をお話してください。

藤沼 まず、私が行っている治療を
タブレットで理解していただけるよ
うになっていますので、それをご覧
いただけます。

そして診察になります。来られ
る患者さんはほとんどが総合病院な
どですでに治療を受けています。し
かし、総合病院では患者さんのメン
タルケアが置き去りにされているこ
とが多いので、患者さんの話しをじ
つくり聞いて、心に寄り添うことか
ら始めます。

**自身が受けるか受けないか
を決められることが大切**

——標準治療は決められたルールか
ら逸脱することは許されませんし、



藤沼秀光院長

日々多くの患者さんが来院されます
から、ゆっくりと話す時間が無いの
は仕方ないかもしれませんが、しかし、
医師にとっては多くの患者さんのう
ちの1人でも、患者さんにとっては
目の前のお医者さんが頼りの命綱な
のですから、もっと患者さんと対話
する時間を増やす工夫をして欲しい
と思います。

藤沼 診療にあたっては、患者さん
本位であることを大切にしていま
す。たとえば、抗がん剤を受けるか
どうかの相談があれば、「西洋医学
を学んだ医師の立場からは受けるこ
とをお勧めしますが、私個人として
は受けないという選択をする場合も
あります」とお答えしています。そ
うして、患者さん自身が受けるか受
けないかを決められることが大切だ
と思います。

——そうですね。受けたくないと思
っているのに自分の意思に反して抗

がん剤治療を受けたところ効果が得られなかったり、逆に納得して受けたら効果がより得られたりしたという話はよくお聞きします。

先生が、患者さんに寄り添う医療を実践されていらっしゃることはよくわかりましたが、貴院には基本となる3大療法があるとお聞きしましたが、ご説明いただけますか。

藤沼 標準治療では手術、放射線、抗がん剤が3大治療で、もちろんこれを尊重しますが、当院では免疫療法、アポトーシス誘導、新生血管抑制が3大療法で、標準治療と異なるところはどれも患者さんに優しい治療だということです。

まず免疫療法ですが、免疫療法には患者さんの血液を採取して培養施設で免疫細胞であるリンパ球の数を増やし、さらに活性化して患者さん

に戻す免疫細胞療法と、冬虫夏草や乳酸菌を使い患者さんの免疫を上げる免疫療法と2種類あります。

免疫細胞療法は先進的な治療ですが、費用が高いのが難点です。さらに、1センチのがんでしたらがん細胞は10億個ですが、3センチになると270億個になってしまっていますので、進行しているがんですと多勢に無勢になりかねません。がんが小さいうちや進行防止が目的ならよいのですが、大きくなってしまったがんを治すのであれば厳しいかもしれません。

冬虫夏草と乳酸菌は、費用もそれほど高額ではなく来院しなくてもできる治療です。当院で扱っている冬虫夏草は中国ではなく日本産のエキシ化されたもので、免疫力アップに大きな効果を

もたらします。

乳酸菌は、ダイヤキングをお勧めしています。この乳酸菌は白血球を強く活性化し腫瘍壊死因子を産生する誘導力が優れていて、免疫全体のバランスも整えます。特に乳がんの患者さんには効果が期待できます。

——2つ目の柱は、永遠に増殖し続けるがん細胞を自死させるように導く、アポトーシス誘導ですね。

藤沼 アポトーシス誘導には、すでに複数の大学で研究が行われている梅エキス(ミサツール)を使用しています。

免疫性チエックポイント阻害薬として有名なオプジーボはリンパ球のPD-1を阻害しますが、ミサツールにはがん細胞が免疫からの攻撃にブレーキをかける因子(PD-L1)そのものの発現を抑える効果もある

との論文も出ています。ですから、がん細胞に直接働きますし、費用も安いことからこちらもお勧めしています。

——3つ目の柱が、新生血管抑制ですね。がんは増殖を繰り返すので食欲旺盛で新しい血管をつくり、どんどん栄養を取り込みますが、血管をつくらせずにがんを兵糧攻めにする療法ですね。

藤沼 サメはがんにならないと言われていて、サメの肉から抽出された脂質には血管抑制作用があります。サメ脂質が血管新生促進因子の働きを阻害することで、血管新生を抑制する効果があるのです。

こちらも、1日20回カプセルを飲むだけです。とてもやさしい療法です。

がんは総力戦ですので、治療の選択肢は多いほうがよいと考えています

——3つの療法ともとても期待が持てます。しかし、先生はまだ多くの治療法をお持ちですね。

藤沼 がんは総力戦ですので、治療の選択肢は多いほうがよいと考えています。今お話しした3大療法の他に、バイオアロマ水、高濃度ビタミンC点滴療法、高圧酸素療法、温熱療法、水溶性珪素などの療法を取り入れています。

バイオアロマ水は香り抽出水とも



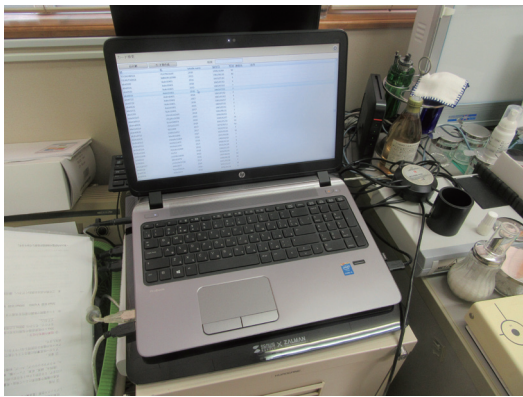
藤沼医院外観



血流をよくする「磁気治療器」



がんの嫌気性を考慮した「高圧酸素カプセル」



潜在意識がわかる「メタロン」

呼ばれ、最新技術で植物の香り成分を低温下で純水の中に抽出したものです。私の患者さんで、足のかかたにできたメラノーマにバイオアロマ水を直接塗るとともに、毎日飲んだところひと月余りで治ってしまった例があります。悪性リンパ腫の方にも完治例があり、病院の主治医がとても不思議がっていたこともありました。某医科大学ではバイオアロマ水のがんに対する動物実験がスタートし、顕著な効果が報告されています。

高濃度ビタミンC点滴療法は、この雑誌にもよく取り上げられている療法で、50〜75グラムのビタミンCを点滴で投与することにより、過酸化水素を発生させてがんを直接攻撃する療法です。

高圧酸素療法は、がんが嫌気性で



柔らかな日差しが差し込む点滴ルーム

あることに着目し、がんが嫌いな酸素を多くとりいれます。また、温熱療法もがんが正常細胞より熱に弱いことに着目しています。さらに体を温めることで、免疫効果が高まります。

水溶性珪素（シリカリッチ）は、水晶の結晶を溶解させてつくったもので、必須ミネラルの1つである「珪素」が含まれていて、細胞を活性化させるとともに重金属を排出するというデトックス効果もあります。

——いろいろな治療選択肢をお持ちで迷ってしまいますが、先生とよく相談して治療法を決めればよいですね。他に注意する点はございますか。

藤沼 がんの特性として同じ臓器のがんに対する治療法が、ある人には効いて、ある人には効かない場合があります。ですから、大切なことは、

治療を受けて1カ月経ったら必ずマーカーチェックなどをして、受けている治療を検証することです。

遠方から来られる患者さんも多いので、オンライン診療も行っています

——他に読者にお伝えしたいことはございますか。

藤沼 数年前から量子理論に基づく「メタロン」という機器を導入していて、患者さんの潜在意識がわかるようになりました。たとえば、すぐ健康で朗らかな方なのにメタロンでいつも「悲しみ」が出たり、性格が良さそうなのに「妬み」が出たりする場合があります。そうした際は、患者さんの話しをよくお聞きして、原因をつきとめます。さらに、サプリメントの相性などもわかりますので、がん患者さんには特別にお勧めします。

また、遠方から来られる患者さんも多いので、オンライン診療も行っています。会社が休めないなどお時間の取れない方は、当院にお越しただけなくてもご自宅などで診察を受けられます。

——それは便利です。私も先生に診ていただきたいときには利用させていただきます。

最後に、がん患者さんへメッセージをお願いします。

藤沼 がん細胞も元々は自分の細胞



診察室の藤沼院長

なので、がんを敵視して攻撃するということは自分自身を攻撃するということになってしまいます。力づくでがんを無理やりねじ伏せようとするのではなく、がんに対して包容力を持ち、じっくりと説得するつもりでがんの言い分をよく聞くことが必要でしょう。

その上で、自身の考え方や生活習慣を変えられれば、がんはその役目を終えて静かに去っていくのではないのでしょうか。

先程からお話ししてきたいろいろな治療法も、がんの言い分を聞いて自身を変えることができた上で受診されれば、より良い効果が得られるはずです。

最後に、私の敬愛するある方の言葉をご紹介します。

「がんさん、私が死ねば貴方も死んでしまうのよ。だから一緒に生きていきましょう！」

対立の想念のない、なんと素晴らしい言葉ではありませんか。